

イントロダクション

本日が今年最後の定例記者会見となるが、今年を振り返ると、百年に一度と言われた「経済危機」、「政権交代」という歴史的な転換があった年であった。また、中国経済が内需中心とした本格的な成長期に入ったという1年でもあった。企業の経営にとっては、年頭に申し上げた3つの構造変化への「構え」に取り組んだ1年であったと振り返っている。

(天皇陛下ご即位20年を迎えて)

宮中、京都御所において開催された、天皇陛下のご即位20年を記念した茶会に出席させていただいた。

その折、「中小企業の厳しさに大変心を痛めている」という陛下のお言葉があった。それを受けて、私から京都府内の雇用者数の約7割が中小企業に従事しており、その中小企業を元気にする「知恵産業の創造」への取り組みをご紹介申し上げた。それに対して陛下からは、「大切なことなので頑張ってください」というお言葉を賜った。

改めてご即位20年を謹んでお慶び申し上げるとともに、両陛下と皇族の皆さま方の益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げたい。

京都商工会議所の動き

中小企業経営相談センター 年末・休日相談窓口の開設について

記者配布資料

本所の中小企業経営相談センターは、洛央支部に年末の休日相談窓口を設置し、土曜・日曜・祝日を含めて12月30日まで、経営に関する相談に本所の経営支援員が対応することとした。年末における特別対応は、世界的な金融危機の影響を受けた昨年に引き続いて実施するもので、小規模事業者などの経営相談に対してきめ細やかに対応したい。

知恵ビジネスプランコンテストの実施について

記者配布資料

本所は、知恵産業の推進を目的に「知恵ビジネスプランコンテスト」を実施することとした。京都の強みを活かした独創性あふれるプランを公募し、その中から、企業価値を高めて「顧客創造」を目指す事業プランを「知恵ビジネス」として認定し、その実現に向けて集中的に支援を行う。

公募対象は、伝統技術などの活用による新たな生活文化の提案や、環境、少子・高齢社会などの社会的な課題解決による豊かな生活の実現など、京都の地域特性や企業独自の強みを活かしながら、顧客密着型の技術や商品・サービスを創造するプランを想定している。

審査ポイントも、「知恵の使いどころに重点を置いた評価」とし、知恵の使いどころの巧さのもとより、社会や業界に与えるインパクト、実現性までを審査したいと考えている。

知恵ビジネスの認定プランに対するハンズオン支援については、京商ならではのコーディネート力とネットワーク力を発揮したい。企業の抱える問題は千差万別であり、課題解決に

は「適切な支援施策」を「適切なとき」に適用することが重要である。そこに、京商の独自の支援施策はもちろん、京都府・京都市などの様々な支援メニューを効果的に活用していく。また、京商のネットワークを活かして、ビジネスマッチングが見込める顧客を発掘し、本所経営支援員が同行して訪問するなど、顧客創造に向けた出口戦略に力を入れたい。

ニュー京商ビジョンの基本方針である「知恵産業のまち・京都の推進」は、平成 20 年度は知恵産業の「啓発のステージ」として、知恵産業のイメージの共有化、普及啓発を図るため、知恵ビジネスの先進事例の発掘に取り組んできた。「育成のステージ」と捉えている平成 21 年度は、知恵のチャレンジャーネットワーク事業を展開してきたが、このプランコンテストを実施することにより、顧客創造を目指した支援をさらに強化し、「知恵ビジネス」が産業として京都に広がっていく「知恵産業の発展」につなげていきたい。

京都の景況について

京都の上場企業の 9 月中間決算や今期見通しなどを見ると、業績の持ち直しも一部では見られるが、自律的な回復からは程遠い状況ではないだろうか。財政出動・景気刺激策が途切れたらどうなるのか、という不安を常に抱えながら経営にあたっているのが実情である。むしろ、政府の月例経済報告ではデフレが懸念されており、円高基調に推移する為替にも目を配る必要がある。個人消費が上向き、雇用の安定が確かなものになるまでは、本格的な回復とは言えない。

特に、新政権の発足後の 09 年度補正予算の見直しによる一部凍結・組み替えと、それによる景気対策の実行の遅れがむしろ景気底割れの引き金となることを危惧している。

急ぐべきことは、G20 の合意事項にあるように、まずは景気刺激策を継続し、自律的な景気回復への足がかりを固めることが必要である。そのためには、雇用の安定や創出、地域の活性化はもとより、中長期的な成長戦略を踏まえ、将来への投資に重点を置いて、2 次補正予算および来年度予算を早急に編成し、年度内に成立させることが不可欠である。それによって経営者に安心感を与えるということにつながっていく。

記者からの質問事項

政府による事業仕分けに対する印象はどのようなものか？

予算要望の内容について、公開の場で議論する仕組みとしては、良いことである。ただ、議論の進行があまりにも強引過ぎた。特に、文化・教育・科学技術など、投資対効果の見えにくい分野の軽視が、日本の将来を危なくする可能性を秘めている。今後は、政治の判断が大変重要になってくるので、行政刷新会議、内閣における最終判断を待ちたい。

新型インフルエンザの影響などもあったが、今年の京都観光の手ごたえは？

今年の年頭に景気の厳しさを想定し、観光の重点的な対策を打つという視点から、「京都 知恵と力の博覧会」の開催をオール京都で実施することとした。例年この時期に定着しているイベントなどについては、観光客も多く参加していただいている。しかし、参加者を集め切れなかったイベントもあり、広報面の対応において一部反省すべき点はある。動員目標 300 万人に対してどの程度の数字が出ているかは、まだ報告を受けていないので、現状では評価

し辛い。

全体的には、春先は新型インフルエンザの影響もあり、年間を通じて昨年より少し減少しているのではないかと感じている。紅葉のシーズンを迎えているが、天候不順などにより、目標に対して観光客の集まりが鈍いと率直に感じている。

来年の景気について、どのような見通しか？

「経済危機・全治3年」の言葉があったが、来年が3年目に当たる。後半からU字回復とは言わないが、L字回復というイメージを描きながら、来年への対応を考えたい。来年の干支「寅」にあやかり、勢いの良い年にしたい。

以 上

京都商工会議所中小企業経営相談センター

年末休日相談窓口の開設について

京都商工会議所では、厳しい経営環境下におかれている小規模事業者等を支援し、経営相談に対してきめ細かに対応するため、下記の通り年末における休日相談窓口を開設します。

開設日：平成21年12月

5日(土) 6日(日)
12日(土) 13日(日)
19日(土) 20日(日)
23日(水・祝日)
26日(土) 27日(日)
29日(火) 30日(水)

時間：午前9時～午後5時

相談窓口：京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都商工会議所ビル1階
京都商工会議所 洛央支部 075-212-6460

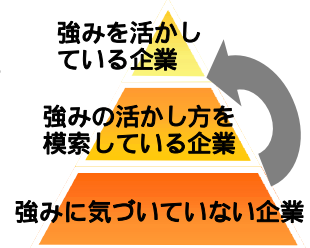
〔年始は1月4日から通常通り営業〕

以上

知恵ビジネスプランコンテストの実施について

概要

京都商工会議所では、知恵産業を推進することを目的に、知恵ビジネスプランコンテストを実施します。京都の強みを活かした独創性あふれる応募プランの中から、企業価値を高めて顧客創造を図る知恵ビジネスを認定し、種々の支援施策を活用したハンズオン支援を通して、認定プランの成長性を高めていきます。

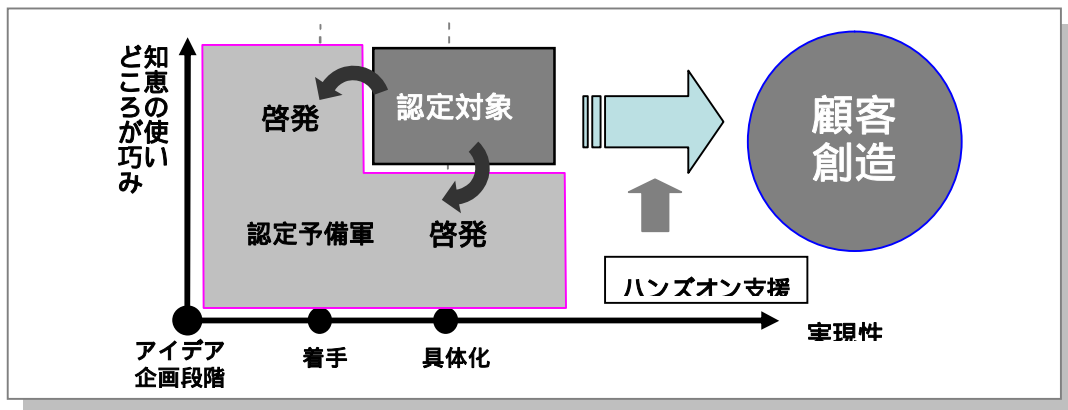


公募対象

京都の特性と企業独自の強みを活かしながら、新たな知恵によってオリジナルの技術や商品・サービス、あるいはビジネスモデルを開発し、“顧客創造”を実現する事業プラン

審査基準

- 知恵の使いどころが巧み（企画・構想の独自性、斬新さ）
 - 知恵の使いどころが与えるインパクト（社会・業界の波及度）
 - 知恵ビジネスの実現性（経営資源・成長性）
- 知恵の使いどころに重点を置いた評価 -



審査方法

申請されたビジネスプランをもとに、書面審査・ヒヤリング等を通じて審査をします（採択件数に特に制限は設けていません）。

支援内容

京都商工会議所のコーディネート力とネットワーク力を生かしたハンズオン支援を行います。本所経営支援員が担当となり、事業化に向けた課題に合わせて専門家と連携するとともに、国・府・市・産業支援機関の支援施策も活用しながら、プラン実現への支援活動を行います。

支援分野：事業運営全般 / 経営・企画 / マーケティング / 広報・プロモート / 顧客マーケティング / 信頼性向上 / 資金・助成金等

スケジュール

平成 21 年 12 月中旬～平成 22 年 1 月中旬	公募期間
平成 22 年 1 月中旬～平成 22 年 2 月中旬	書面審査
平成 22 年 2 月中旬	面接審査・認定
平成 22 年 3 月上旬	認定プラン発表会

本件問合せ先 中小企業経営相談センター 知恵ビジネス推進室 TEL：075-212-6470

顧客創造

京都発 知恵ビジネス企業の創出

